

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成29年度高松市障害者施策推進懇談会（第1回）
開催日時	平成29年9月4日（月）午前10時30分～12時
開催場所	コミュニティ協議会連合会内第1会議室（旧四番丁小学校校舎）
議 題	(1) たかまつ障がい者プラン（平成27年度～29年度）の進捗状況について (2) 次期「たかまつ障がい者プラン」の骨子案について (3) 次期「たかまつ障がい者プラン」策定スケジュール
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井上委員、大熊委員、鎌田委員、河崎委員、川崎委員 黒川委員、坂井委員、武田委員、藤目委員、松川委員 松村委員、山本委員 ※欠席 神内委員、田村委員、渡邊委員
傍 聴 者	3 人 （定員 5 人）
担当課及び連絡先	障がい福祉課 839-2333

会議経過及び会議結果

次のとおり会議を開会し、議題について協議した。

(1) 開 会

坂井会長が議長となり議事進行

議題 (1) たかまつ障がい者プラン（平成27年度～29年度）の進捗状況について

- ・配布資料に沿って事務局より説明
- ・質疑応答

【質疑応答・意見等内容要旨】

(A委員) 各施策の目標・見込量を下回っている理由・対策について、「周知不足」「希望者の減少」とあるが、周知不足で、希望者の減少となったのか、単なる対象者数の減少となっているのか、どちらなのか。

会議経過及び会議結果

- (事務局) どちらが原因であるかという分析はまだ出来ていない。今後は、次回のプランに向けて分析し、各種団体や地域に入って周知等していきたい。
- (B委員) 成年後見人申立について、今後の親たちの安心に繋がることなので、周知啓発をしてほしい。
- (事務局) 成年後見人申立については、65歳未満を障がい福祉課で担当しており、国からも計画作成の指針も出ており、充分周知していきたい。
- (C委員) 計画の目標について、実態を反映したうえで設定してほしい。また、成功事例等を分析して、やってほしい。
- (D委員) 施策評価では高評価であっても、実態は良くないこともある。
- (事務局) プランを作成して浸透していくことが大事であり、日々の業務から浸透していくよう努めていきたい。
- (E委員) 東京オリンピック・パラリンピック開催で東京は障がい者に対する対応・対策が進んできている。特にマナー協会等が増えており、ユニバーサルマナーやダイバーシティ・アテンダントなどが取り入れられることにより、「理解と交流の推進」に繋がっていくと思うので、今後推進して行ってほしい。また、意思疎通支援用具の給付について、各団体と検討していただき、実態に合ったものを取り入れてほしい。
- (事務局) マナー検定については、高松市職員を含めて宿泊施設の従業員等日本パラ陸上競技大会に向けて検討していきたい。意思疎通支援用具については、現在機器も進んでおり、ICT推進室と協議を進めながら、検討していきたい。

会議経過及び会議結果

- (A委員) 支援器具等について、学校教育で導入してない中、急に卒業して、使いこなすことは難しいと思うので、教育との連携を深めていってほしい。
- (事務局) 現在、教育関係者と協議している段階である。
- (F委員) 「早期療育と学校教育の充実」について、評価と実態がかい離していると感じる。現場では実感出来ない。また、特別支援学校との連携訪問や巡回相談について、申請期間が限られており、必要と感じた時に申込みが出来ないことや手続きに手間がかかること等教育と連携し、改善していってほしい。
- (H委員) 昔に比べ申請等の手続は簡単になっている。また、特別支援学級の担任は初めてのことが多いので、対応が不慣れであることがある。
- (A委員) 総合教育センターのような教育現場と行政をつなぐ役割の方にも、懇談会に参加してほしい。
- (G委員) 周知等を行って、あんしん通報サービスをもっと普及していって欲しい。
- (B委員) ヘルパーさんは増えていっているのか。
- (事務局) 障がい者向けのヘルパーについて、事業所は充足しているが、全員が満足いくような対応ができているとは言えない。今後個々の質を高められるような育成ができるよう行政として努めていきたい。
- (H委員) 特別支援の研修会について、非常に増え、多忙になっているのが現状。目標設定の際に、研修会の数ではなく、研修の中身・満足度等で評価して欲しい。また、総合教育センターでは就学の相談のみとなっているので、小さい時から相談できるような体制づくりをしてほしい。

会議経過及び会議結果

(A委員) 学校独自でやる特別支援学級の研修会は結構やっている。

(事務局) 事務方と教育者の交わりが大切だと痛感している。相談機関については、来年4月を目途に地域生活支援拠点を設置予定であり、そこでは、0歳児から高齢者の相談が可能であるので、利用していただきたい。

議題(2) 次期「たかまつ障がい者プラン」の骨子案について

- ・配布資料に沿って事務局より説明
- ・質疑応答

【質疑応答・意見等内容要旨】

(I委員) 高齢者や障がい者両方対応できるようなヘルパーを育成していきたい。

(J委員) たかまつ障がい者プラン骨子の基本理念について、うまく機能いくようにしてほしい。

(K委員) 今後も周知啓発の徹底はして欲しい。周知啓発以上に理解という部分においては教育分野との連携は、必須になってくると思うので、プランに盛り込んで欲しい。また、事業所は充足していると思うが、その維持・質の向上のために、事業所のチェック機能・フォローを考えて欲しい。

(H委員) 特別支援教育員・特別支援教育サポーターについて、人は充足しているが、支援するための旅費が足りない。

(D委員) 教育との連携が大事だと思う。小さい時から地域の中で暮らしていくことが良い。そのためにはどうすればいいのか。

(C委員) 障がい者の一般就労は難しい中で、入ってから育てられるような体制づくりを考えてほしい。

会議経過及び会議結果

- (G 委員) 障がい者スポーツ大会等のイベント参加者について、高齢化が進み、減少している現状。若い人にもっと集まってくれるようにしてほしい。
- (F 委員) 若い世代の考え方が自己中心的になってきている。今後変えていけるように頑張りたい。
- (J 委員) パラリンピックではなぜ、精神障害者が出ていないのか。精神障がいの分野は他の障がいと比べ、違っている部分もあったりするので、同じように並んでいけるようになってほしい。次期プランの基本指針見直しポイントの「精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築」を活用していけるようにしてほしい。
- (A 委員) イギリスのビール会社ギネスのCMのような周知啓発でインパクトのあるようなコマーシャルを作成してはどうか。
- (E 委員) 聴覚障害は基本パラリンピックに出られず、デフリンピックがある。また、就労人口が減少している中で、人が足りない部分に障がいを持っている方が進出出来る可能性があり、ICT等を活用して補えていければいいと感じている。また、次期たかまつ障がい者プランから障がい児福祉計画が盛り込まれるのであれば、「たかまつ障がい者（児）プラン」とタイトルを変えたらどうか。
- (事務局) タイトルについては検討してみます。
- (A 委員) 基本理念に共生が追加となったことが進歩だと思う。
- (B 委員) 親の立場で、昔に比べ福祉が充実することにより、楽になってきており、苦勞することが少なくなり、感謝の気持ちが薄れてきている。親の意識を変えていかなければならない。

会議経過及び会議結果

(I 委員) 福祉教育について、学校ごとにではなく、統一的にできたらいいと思う。

議題 (3) 次期「たかまつ障がい者プラン」策定スケジュールについて
・配布資料に沿って事務局より説明

意見なし